リニア時代を迎える飯伊地域の資源（10）

赤石山脈（南アルプス）（７）南信州遠山郷（その２）

～遠山郷登山口に変化の兆し？～

南アルプスの遠山郷については、本誌2019年４月発行号№481で取り上げたが、その後若干の動きがみられることから再び訪れた。

下栗からの南アルプス（中央右：聖岳）

１．コロナとリニアが南ア登山へ影響

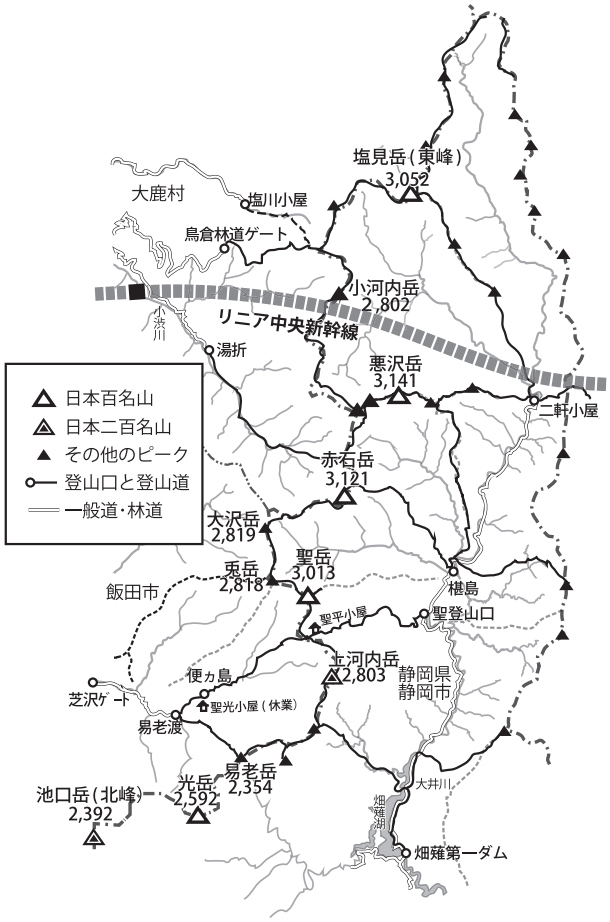
本年の南アルプスは、昨年に引き続き、新型コロナウィルス蔓延により多くの山小屋が休業している。南アルプス南部の静岡県側では、静岡県・静岡市有の９施設が休業（㈱特殊東海フォレストHP）。このことがあって、一般車両が行くことのできる畑薙第一ダムから奥へ向かう登山者用送迎バスは運行休止となり、畑薙第一ダムからの徒歩による入山となって静岡県側の南アへのアプローチが従来より時間を要することとなっている。尚、長野県側では、民営の三伏峠小屋（大鹿村）はコロナ対策を実施し営業している（同HP）。

他方で、現状コロナの表面化で見逃されがちであるが、静岡県側の代表的な登山基地である椹島（さわらじま）と二軒小屋（にけんごや）では、リニア工事関係者の宿泊施設が設置され、あるいは従来登山者に提供されていたロッジもリニア工事関係者の使用となって、一般の登山者が入り込み難くなっている。

このような事情から、本年は長野県側から南アに入る登山者が増加しているといわれている。飯田市南信濃の聖岳（ひじりだけ）、光岳（てかりだけ）（共に日本百名山）の登山口である芝沢ゲート（本来の登山口である易老渡（いろうど）、便ガ島（たよりがしま）へは途中の道路が崩落し一般車通行止め、手前の芝沢ゲートでスタートとなる）では、７月の４連休には駐車場が満杯、130台程の駐車が確認されたとの情報があった。

限られた人数の登山者で推移していた南信州遠山郷の入山状況に構造的な変化が起きているのだろうか。

南アルプス南部概略図



2．登山者の行動が地域経済に組み込まれるように

芝沢ゲートと駐車場
7月4連休は130台程度の駐車があった

最近の南アルプスの入山状況等について、遠山観光協会にお聞きした。

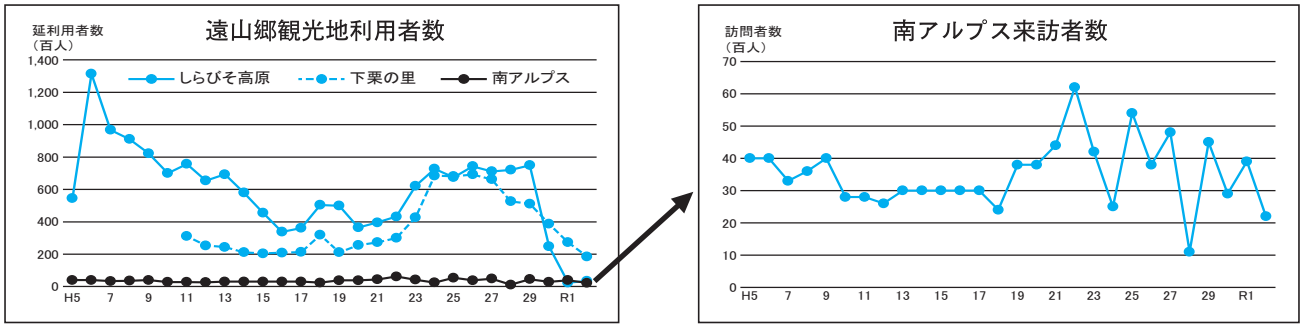
南アルプス聖岳、光岳の入山は、夏シーズンを中心に年間2,000～4,000人で推移している（下グラフ）。最近の年毎の増減は登山道の崩落による影響。近年の遠山郷の各観光ポイントは国道152号線（地蔵峠など）をはじめ、各所で毎年のように起きる崩落により入込状況は厳しい。そしてコロナの影響も。

芝沢ゲートから易老渡、便ガ島登山口までの道路（市道）は、一時電力会社、治山関係の車両の他タクシーの乗り入れが可能だったが最近の崩落によりタクシーの乗り入れはできなくなっており、登山者は芝沢ゲートからの徒歩となる。今年になって入山者は増えており、7月4連休の芝沢ゲート駐車場の混雑状況は承知しているが、お盆中は雨で入山はそれ程ではなかったともいえる。いずれにしろ、今年の入山状況はシーズンが終わってデータを集計しないと何とも言えない。静岡県側の聖平（ひじりだいら）小屋の管理者から、今年の小屋関係の荷揚げを長野県側からしたいと申し入れがあり、対応した。一般登山者も静岡県側から長野県側への入山シフトがあるかとも思われるが、聖岳、光岳はそう簡単に入れる山ではないので劇的な増加にはならないのではないか。

リニアを見据えた山岳政策としては、まず登山口までの道路と登山道の安全確保。毎年のように通行止めがあると客離れを招いてしまう。

ビジターセンター設置など登山者が立ち寄れる施設、リニア駅なりからの二次交通の整備、ガイドの要請など、登山に関して地元にお金が落ちる仕組みを整える必要があると考える。

現在、管理者が不在となって休業している聖光小屋の再開も課題。採算性に目途がつけられるよう考えたい。



（長野県観光地利用者統計調査）

3．リニア時代に向けた山岳観光を志向して

今回、南信州遠山郷に劇的な変化が生じているとのデータ的な裏付けは得られなかったが、登山者が今までよりも南アの長野県側に目を向けるようになったことは事実のようだ。コロナの蔓延状況もあるが、リニア工事も関係しているとなると、この状況は当面続くことになる。南ア登山の環境整備を官民で取り組むことが求められる。そして、リニア開通後に繋げていくことができれば、と考える。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室　加藤　修平）